

あかぬまじんじや おびしやさい
赤沼神社の弓射祭

弓射祭は、大字赤沼（豊野地区）にある赤沼神社の神事儀式で、毎年一月七日に行なわれる正月行事である。

赤沼神社は、創建の時代は不明であるが、由緒書によると宝永三年三月（一七〇六年）に再建されたと伝えられている香取神社で、明治六年赤沼の村社になった。明治三十九年勅令によって末社の八坂・稻荷・熊野・雷電・山王の社を合祀して赤沼神社と改称された。主祭神は経津主神（ふつぬしのかみ）である。

オビシヤとは、歩射（ぶしや）の語がなまったものである。これは、馬に乗って行なわれる流鏝馬（やぶさめ）の神事と同じようなもので、馬に乗らないで弓的を射る行事である。

この行事は破魔の目的と年占の意味を兼ねた神事であり、関東地方では千葉県の香取神宮で飛射の神事が行われている。歩射の神事が香取神社で行なわれるのもうなずける。

赤沼神社で行なわれる行事はその地区内に住む、その年の学齢期（六歳）になった男の子が新調の衣服・はかま姿で社前の庭に設けられた的（直径一尺位で竹ヒゴに紙を張ったもの）に向かって弓を射る。（弓矢は青竹と麻、半紙などで作られている。矢の長さは一一〇センチメートル）

しかし、的までの距離が十四、五尺程あるので、子供のみでは無理なため神官や氏子総代、祭り当番、区長等が介添して射る。

子供の行事が終わると、氏子総代・祭り当番・区長等が交互に弓を射て、その年の作物の豊凶を占う行事が行なわれる。放たれた矢は参拝者が災難除けに競って拾う。この神事が終わると直会なおらいが始まり、祭り当番の受渡しなほの儀式が行なわれる。祭り当番は上手組・下手組・新町組しんまちぐみ・新田組が順廻りで受け持っている。最近は子供の数が少ないので女の子も参加している。

赤沼の歩射の神事は古くから行なわれている。天保年間までは、弓を射る子供は宝物づくしの模様を染め抜いた衣服を着て参加したことが伝えられている。このような神事は全国にもあるが、土地によって、奉射ほうしや・舞射ぶしや・仏者ぶつしや・飛射ひしや・備射びしやとも書かれ「ムシヤ」・「ホウシヤ」などとも呼ぶ。または、弓祈禱おゆみしんじ・御弓神事ひきめ・墓目神事いざ・弓去祭ももて・百手まとい・的射などともいわれているが、この地方では歩射となっている。弓神事は行なわず宴会だけになったものも多い。

初出「広報かすかべ 昭和五十三年二月」かすかべの歴史余話